

## 編 集 後 記

我が恩師である故・亀山正邦先生は随筆集「臨床偶感」の中で、「モナ・リザの眉」というエッセイを残されました。モナ・リザには眉はあるのか？意外と知られていないことですが、実は「無い」のです。当時の女性には眉毛を抜く習慣があるとか、後年に上塗りされた可能性があるなど、諸説あるようですが、私を含め「多分あるだろう」と思い込んでいる方も多いのではないのでしょうか。

亀山先生はこう述べます。「私どもの周囲にはモナ・リザの眉のように、描かれて当然と思っても、実はそうではないことが沢山ある。(中略)医学は科学であるが、患者さんそれぞれに対する『最も個別的』な科学である。学問としての基本的な法則のみを心得て、わかったつもりになることは、最も危険であろう」と。

我々脳神経内科医は問診と神経診察所見から臨床診断をし、血液・脳脊髄液、画像、電気生理など診断確定と除外のための諸検査を組み、診断と治療までのストーリーを組み立てます。この過程は厳しいトレーニングを積んで身につけるものですが、いったん自分の「型」が出来ると多忙な日常診療で往々にして流れに任せてしまいがちです。そして、ストーリーからの小さな脱線を単なる合併症や亜型として、過ごしてしまうことも稀ではありません。

このような悪習を戒める手段は、一人一人の患者に「最

も個別的な科学」的態度で接しそれを形に残すこと、それはまさに症例報告を行うよう心がけることではないでしょうか。本誌の編集後記では、臨床神経学への投稿を毎回のように呼びかけられています。現在、電子ジャーナル化され、興味のある記事をインターネットで検索することが常となった今、この編集後記がどれほど読者の目にとまるか不明ですが、編集委員は症例報告を通じて経験症例からの学びを形にし、その蓄積に立脚して今の自分があるという確固たる自負をお持ちだと思います。そして皆様からの投稿は、編集委員と神経学会の指導的立場の方々による丁寧で建設的な査読を受け、より良いものとなるよう細心の注意が払われています。是非、臨床医としての財産を蓄積して頂きたいと思います。

亀山先生は沢山の名言を残されました。「日常診療の情性に陥ること無く、これはということが見える様な『眼』を養ってゆきたい。そのためには、根源的に、科学的に自分を訓練してゆくしかない、と考えている。」臨床神経学は「これは」という気付きの宝箱です。診断や治療の困った際の「症例辞書」の筆者が増え続けることを願ってやみません。

(漆谷 真)

## 〈 編 集 委 員 〉

|       |       |        |       |       |       |
|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 編集委員長 | 小野寺 理 | 編集副委員長 | 三澤 園子 |       |       |
| 編集幹事  | 石浦 浩之 | 漆谷 真   | 杉江 和馬 |       |       |
| 編集委員  | 今井 富裕 | 木下 真幸子 | 古賀 政利 | 櫻井 圭太 | 柴田 護  |
| 下畑 享良 | 鈴木 匡子 | 辻野 彰   | 坪井 義夫 | 中嶋 秀人 | 新野 正明 |

|         |                               |              |  |
|---------|-------------------------------|--------------|--|
| 「臨床神経学」 | 第63巻 第6号                      | 2023年6月1日発行  |  |
| 編 集 者   | 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル        | 一般社団法人日本神経学会 |  |
| 発 行 者   | 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル        | 西 山 和 利      |  |
| 印 刷 所   | 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 | 中西印刷株式会社     |  |

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル  
日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>